

研究者ら大学関係者の子育てを支援しようと、名古屋大（名古屋市中種区）が東山キャンパスに小学生専用の学童保育所の建設を進めていることが分かった。今夏にも開設する方針で、全国の大学で初の試み。子育てが障壁となって研究を断念せざるを得ない女性も多く、全国の大学のモデルケースになりそうだ。

名大にはゼロ―五歳児を対象とした学内保育所「こすもす保育園」はあるが、子どもが小学生になると、

研究者子育て 名大が「応援」

全国初 キャンパスで学童保育

預け先は地域の学童保育所の佐々木成江・特任准教授ならではの利点を生かし、か名古屋市のトワイライト（三）は「女性研究者にとつて『小一の壁』といわれるが、例えば建築工学なら研究者は夜間に及ぶ研究も多く、小学校入学時は、出産に次いで研究を断念する第二のピーク。学内に施設があれば、研究を夕方中断する

新しい施設は、急な仕事にも対応できるよう午後九時まで利用でき、近隣小学校から大学まで子どもの送迎も予定している。

今回のプロジェクトのメーンバーで、自らも子育て中という名大男女共同参画室

施設は増築する保育園二階に整備し、約百二十平方

米諸国と比べて低く、名大

体の13%（昨年三月現

在）。大半が五―割の欧

も約11%にとどまってい

また、大学

る。